

第5回 産業振興計画フォローアップ委員会 観光部会（審議の概要）

平成24年1月13日（金）9:30～12:15

高知会館3階 飛鳥

<第2期産業振興計画での産業成長戦略(観光分野)の概要(案)について>

○A委員

事務局案は、これまで議論してきた方向性を分かりやすく、統合すべきところは統合し、新たに加えるべきところは明解にするなど、工夫して整理されている。特に意見がないようであれば、この8つの方向性で進めていくことでよいか。

→全員一致で了承

<計画線表(案)について>

(取組方針1 観光拠点の形成、2 資源の発掘・磨き上げ、3 広域観光の推進)

○B委員

人材育成は、各地域のリーダーを集めるなどリーダー育成になりがちのところが多々出てくるが、おもてなしの向上につながるものなので、幅広く参加できるようにしていただきたい。また、観光資源の発掘や磨き上げには、地元だけでは分からない部分があるので外部の意見を聞かなければならないのはもっともだが、押し付けになってはいけないので、地域の理解を十分に得られるようなものにしないと、場所はできたがなかなか体制が整わないという心配がある。

○A委員

それは観光の県民運動を広げて行くうえでも大変重要なことである。

○C委員

人材育成塾は2年間を予定しているのか。

○事務局

塾は現時点では2年間を予定しているが、人材育成そのものはずっと続けていく。ただ、GAP調査は毎年やっていくものではないし、塾にしても県の予算を伴うのでいつまでも続けていくものではないので、県の予算がなくとも地域が自立して取り組んでいけるようにしていきたいと考えている。

(取組方針4 効果的な広報・セールス活動の推進)

○D委員

教育旅行の誘致の必要性は分かるが、その具体的な手法がみえない。観光資源の発掘・磨き上げの受入態勢づくりに民泊受入家庭の拡大とあるが、本当に民泊は必要なものなのか。農業や漁業体験というものが本当にトレンドなのか、他県がやっているからやるというの

ではなく、十分な検証をして慎重にならないと、安心・安全・衛生面でハイリスクな面がある。

○E委員

旅行会社の立場からいうとできれば民泊は避けたい部分はあるが、学校に採用されないといけないので、旅行会社は新しいもの、学校に受入れられるものを常に探しており、そのなかで民泊というものがある。体験など地域との深い触れ合いが達成されれば、必ずしも民泊は必要ないと思っている。ホテルで食事をとるなどきちっとしたサービスが提供できるほうがいいし、そのほうが先生の手間もかからない。

○事務局

幡多方面は民泊を活用した教育旅行を進めているし、須崎では民泊が進めば誘致が進むという旅行会社からの声があると聞いているが、情報量としては少ない面があるので、何が効果的かということを含めて今後検討していきたい。

○A委員

リクルートや四経連の調査などでは、他県と比べて高知へ来たいと思っている人は多いが、実際に高知に来るといふ実行度は低い。本当に行きたいと思わせる気持ちを、実行に切り替えるスイッチを入れるためにはどうすればよいかを意識していくことが必要である。来年はリョーマの休日というキャンペーンを展開するし、ほかに旅行エージェントへの働きかけ、一般へのプロモーションなどを行っていくが、どうすれば目に留まるのか、スイッチをオンにするのかを常に意識し考えていくことが必要。

(取組方針5 人材の育成)

○F委員

人材育成は幅広く考えたほうがいいのかと思う。人材育成塾は必要であるが、地域の人が気軽に参加できるような機会を与えるほうが、県民の意識が広がると思う。また、学校教育、社会教育の中で、高知の良さを子どもたちに浸透させていくことが重要。例えば、簡単な試験で観光をPRできる子どもを「子ども観光大使」として認定すれば、子どもに地域の誇りや観光への意識が芽生えるし、一般の人にもマスコミを通じて広がっていくのではないかと。

(取組方針6 おもてなしの向上)

○G委員

お客さんが利便性を感じるおもてなしの向上もあるが、県民あげて取り組むことが一番大事であり難しいところ。

教育からスタートしないといけないが、観光客を大事にしていくこと、おもてなしをしていくということを情報発信していくことが重要。

高知に泊まって、食事がおいしかったとか、おもてなししてくれた、体験が良かったでは

なく、利害関係のない学生が道案内をしてくれたとか、ベースには高知人にはそういう心があると思うので、これを県民会議全体で醸成することが大事。

○事務局

根源的な課題で、行政だけの働きかけでは難しい。県民を巻き込むことが大事と認識している。計画では、フォーラムを実施したりしていくが、県民に考えていただくようなテーマを出していくことを検討していく。行政ができることは限られるが、そこをくみとって自発的な活動につなげていくかは、おもてなし県民会議などで検討するようにしているので、今後に生かしていきたい。

○G委員

今まではアンケートで指摘された不備な点を改善するようにしていたが、そうではなく、ほめて頂いた、喜んでいただいた所を伸ばしていくように、成功体験を皆でしましようというほうが早いのではないか。マイナスをプラスではなく、プラスをプラスに伸ばして行くという発想で取り組んではどうか。

○A委員

その考えは高知県民の血肉に合っているし、いい考えだと思う。

○H委員

おもてなしの向上だけでなく計画全体にわたる部分であるが、特に観光分野みたいに新しいものを作り上げる、人の心が変わって動いていくものには、いままでのやり方で一つ一つの事業に付け加えていくやり方だけで通用しないのではないか。

仕事上、他県の観光施策や体験ツアーなどに触れる機会があるが、どこも同じことを考えている。他県との優位性を考えた時、高知は相当厳しいものがある。これから計画に掲げられているものが、県民の皆さんが納得して数値が伸びて幸せになってという部分と、一方で産業をつくる、成長させるということは、今までのものを打ち破るようなダイナミックな動きをもたらすことであり、相反するところがある。

計画もこれだけ見ると非の打ち所がないし、このまま進めていけば素晴らしいものになるのだろうが、4年後10年後の姿に結びついていかないと感じる。

人材育成にしても、このままでは今までの延長線上で、集まってくるのは同じ人だろうなと思う。例えば小学校の教本に観光のことを載せるとか、中学生には英語で観光案内するカリキュラムを入れていくということを強制的に行う事で、子どもに観光としての意識をつけることができる。また、子供が変われば親も変わるし、皆を巻き込んでいける。このようなダイナミックな仕組みづくりを行わないと、4年後10年後は変わっていない。いまのままでは少しは伸びると思うが、大きな産業にまでなるのは厳しいと思う。

観光の専門家でなくても、観光で成功している人はたくさんいる。観光のHOWTOはすぐに手に入るので、常に学ぶ姿勢で、自らやる気があり、創造力がある人を育てる、そして部門間連携が表にでてくるようなものが必要かと思う。

○事務局

核心的なご意見であり、ドラスティック、ダイナミックな発想は我々も失いがちなところがある。今の計画にはこれといったものがないが、そういうことを意識しながら、新しい取組を考えていきたい。

(取組方針7 スポーツツーリズムの推進)

○D委員

新たに取り組む重要なテーマだと認識しているが、年代別、競技別、季節別などの観点での大会、誘致などの個々の検討が必要。年代の観点でいうと、今の計画ではウォークのことが入っていない。日本ウォーキング協会が認定している、安芸、高知、足摺の3つコースがあるので、それを中に加える必要があるのではないか。また、県民市民のウォーキングへの意識が全国から比べると低い。高知市の龍馬ゆかりの道ツーデーウォークにしても県内の参加者は2割程度しかいないので、県民市民への健康増進、スポーツ意識を含めたウォークへの関心を高める必要がある。競技別では、剣道、柔道大会など、中体連の先生が中心になって取り組んでいただいているが、旅行会社とタイアップして進めたほうが、観光への誘いをしやすいし、旅行代理店も業績があがらないと高知から撤退することもありえる。県内の旅行代理店は、高知から他県へ送り出す仕事だけでなく、高知へ引っ張ってくる仕事もやっているのだから、タイアップすることで市場を拡大し、競技に来た人に対して各地の観光情報を提供したり、地域のよさを知ってもらうことができる。

○I委員

スポーツツーリズムは、本県が根本的に持っている地理的ハンディキャップを克服できる取組で、遠くでも行ってみようと思わせる魅力のあるものと思っている。問題は、受入においてハード面の整備に費用がかかるので、庁内プロジェクトチームでプライオリティを検討して進めていくことになるが、何も無いのに呼ぶだけではかえって失礼な結果になるので、ソフト面と平行して進めていかなければならない。

○F委員

アマチュアスポーツで、少年野球大会や剣道大会などもあり、野球は選手だけでも1000人以上、沖縄や兵庫など各県から来ている。子どもは大人ほどお金を落とさないが、毎年やっていくものもあるので、低い年齢層もアピールしていくような計画を明記したほうがいいのではないか。

○E委員

下の年齢だけでなく、上の年齢も考えたらどうか。例えば、ゲートボール・ペタンクなどいろいろな大会があるので、ハードなスポーツだけでなくソフトなスポーツも取り入れて、その後の観光にもつなげていってはどうか。スポレク（全国スポーツ・レクリエーション祭）は全国持ち回りでやっているのだから、誘致するなど高齢者のスポーツの幅を広げていってはどうか。鳥取県の湯梨浜町はグランドゴルフ発祥の地ということで、グランド整備が

進み訪れる老人も多いので、そのスポーツの聖地といわれるような取組を進めてはどうか。

(取組方針 8 国際観光の推進)

○D委員

誘客組織の発足や事業の展開の部分があまり明確に出されていないと感じる。

国際観光は国策としての伸びしろはあるが、民間ではやりたいが何をやったらいいかわからないところある。販促ツール、販促キャラバン、ネットエージェント対策など諸所の具体的な誘客を展開をしていくなかで、その都度参加者を集めるのではなく、官民が一体となって組織化を確立する必要があるのではないか。

国際観光の遅れている他県においても、ネットエージェントの活用や連携を進めているので、そうした企業の活用も、この官民一体となった組織を通じて進めてはどうか。

○J委員

高知市の史跡を中心としたまち歩き観光を進めるうえで、観光案内板の多言語化を検討しているが、日本語でもわかりにくいものがあり、市の教育委員会からは多言語化するならば五ヶ国語は必要といわれており中断している。日本人向けの案内も十分でないまま進める事ができないし、本当に五ヶ国語が必要なのか、いつまでに進めればよいかタイムスケジュールを示してほしい。

○事務局

官民一体となった誘客組織については、平成 21 年に設置した国際観光推進会議の体制を拡充し、進めていくこととしている。

観光案内板は、市が整備する事業に県が補助金を出しているが、計画の中でも 27 年度まで継続していく予定であり、補助要綱では英語のみの標記だけでも認めている。

○A委員

J委員の指摘には、県下統一的なデザインなど観光案内板に関する根本的な指摘もあると思うので、今後の課題としてとらえてほしい。

○C委員

5年後10年後のことを考えると、時代は変わり東アジアの人の往来は多分に増えると思う。県内の多言語化は進んでいるが、英語だけであったり、韓国中国語が入っていたりバラバラな雰囲気があるので、中長期計画を立てて補助金を出すのであれば、今は英語だけでよいが、未来には韓国語中国語も入れるなどの目標や指示があれば、整備するほうも予定を立てて進められると思う。

<第2期計画の推進によって実現を目指す本県観光の姿(案)について>

○C委員

ここで示された第2期計画案は、中長期的なスケジュールも示され、このまま進めていけ

ばすばらしいものになると思うが、今後は、リスクの洗い出しと分析が行えるよう仕組みづくりを構築してほしい。またアンケートにはヒントが隠されていると思うので、マイナス面の改善だけでなく、いい面を伸ばしていくことにも取り組んでいただきたい。

それと、予算と体制のことが分からないが、計画の内容を見る限りイベントを打ち上げるよりもチャレンジな年、意気込みがあると感じたので、この計画に広報プロモーションという言葉を入れてほしい。高知の県民全体を巻き込むプロモーション、具体的には、さんSUN高知のルートを使って、DMを高知県民全員に配布したり、きれいな言葉と美しい画像、訴求力の高いCMを流し、高知が変わったということを伝える、観光で何かあったらよさこいネットを見てもらえるようなカードを作成するなど。今あるものを活用して県民の気運を盛り上げていくことが重要であるし、県民はメッセージを欲しがっていると思うので、みんながアクセスし見てもらえる、情報を発信しメッセージを伝えていくものが必要かと思う。県が蓄積した情報をスムーズに伝え、理解してもらうことがポイントで、おもてなしの県民会議や講演会を広報プロモーションで伝えることで、県民のおもてなしへの意識を促すことができると思うので仕組みを考えてほしい。

○K委員

10年後の姿の文言で少し思い切った感じになるが、観光立県として「地位が確立し」と付け加えた方がよいのではないか。

○A委員

高知の特性を生かすなら、中長期のステイが常態化して、移住による人口増につながるというぐらいにしてはどうか。高知ほど中長期的ステイに適したところはなく、スポーツにしても同じことがいえる。作家の塩野七生氏も言っていることを具体的に進めてはどうかということ。単なるサイトシーイングではなく、高知にひたれる形の滞在型観光を根付かせなければならないと思う。

○事務局

移住は観光分野だけの取組とはならないので、表現するのは難しいが、長期滞在型の観光が定着しているということは観光として目指していきたい。

○A委員

移住は観光部の範囲を超えるということなので、中長期のステイが常態化して、高知に浸れる形の滞在型観光が根付いている、という記述は検討していただきたい。

○D委員

10年後は高速道路も延伸し、観光客の移動が著しく改善されると思うので、拠点と拠点をつなぎながら、県内の広域周遊型観光の定着に向けて仕上がっていると思う。

足摺や室戸へのアクセスは改善するので、従来くめなかった二泊三日の広域の観光スタイル、県内のネットワークを活用した新しい周遊型観光を根付かせなければならない。

○事務局

そういった趣旨を踏まえて盛り込むよう検討させていただく。

○H委員

この目標が県民に向けて認知してもらうものであるなら、10年後に向けて来年から本格的に作っていくものを、県民といっしょに作りあげていく、そのためには長期滞在であったり広域の周遊観光であったり、どれだけ観光客が増えて、どれだけ滞在日数が増えて消費があがって、それによって県民が幸せになる、ということがはっきりしてないと県民はついてこれない。そのような実現を目指す観光の姿を求めるべきではないか。

○事務局

ここではお示しできていないが、計画の総論部分に記述されることになるので、県民の方にもしっかり伝わるように、本日の意見を踏まえながら打ち出し方を考えていきたい。また、概要版として作るPRパンフレットにも盛り込んでいくことになると思う。

○A委員

それでは本日の議論のとりまとめに入るが、数値目標としては異論はないし、計画の基本的な方向付けには合意した。

○事務局

ご意見の文章への反映のさせ方については、部会長と事務局に一任させていただくことでよいか。 →全員一致で了承